

建設機械部品などを製造する小沢製作所（栃木県那須烏山市）は、若い世代の採用強化へイメージアップに取り組んでいる。社屋を建て替え、ホームページも刷新。小沢正行社長自ら新入社員の見学指導にあたり、社員の定着につなげようとしている。

1963年創業し、建設機械の油圧部品などを切削加工する。小沢社長は3年後をめぐり息子の小沢康寛専務に会社を継がせる意向で、準備を進める。

現在14人の社員がいるが、正行社長を含め4人が60歳以上。正行社長は「若返りを進めないと会社の未来はない」と、危機感を募らせる。2021年から20〜30歳の社員を毎年1人採用し、今後2、3年おきに2人ほどの若手を採用する計画だ。

若返りを急ぐのは、CAD（コンピュータによる設計）などのデジタ

若手採用へイメージアップ



社名を英語表記し、モダンな外装にした本社社屋（栃木県那須烏山市）

建機部品の小沢製作所

ル技術で求められるスキルが高まっているから、求職者が少ないという。

紙で図面を引くことに慣れたベテラン社員は生産設備の高機能化や自動化への対応が遅れがち。正行社長は「私も操作が難しいと感じることがある」と話す。

製造業は3K（きつい、汚い、危険）とのイメージもあり、若い世代から敬遠されがち。本社がある那須烏山市は山間部に



正行社長④は康寛専務に会社を継いでもらうため、準備を進めている。

くまで現場が主力。社長が椅子に座っているだけでは誰も付いて来ない」とも強調する。新入社員には社長自ら業務内容を指導する。経営トップと気さくに会話できる職場環境にすることで、若手の定着率向上を狙う。工場内の空調設備も電気代を借しますにフル稼働させている。

正行社長はメインバンクの足利銀行と協議し、借入金に対する個人保証を外した。財政基盤が健全であるなど条件はあるが、経営者の個人保証を外すことができれば事業承継のハードルは格段に下がる。

後を継ぐ予定の康寛氏は将来の展望について「製品の最終仕上げまで加工の幅を広げつつ、自社製品の開発にも取り組んでいきたい」と話している。（加藤敦志）

社屋建て替え／サイト刷新